及川大工を追って

―会津街道を往く足跡―

第八回

ッァッァ（父）の葬礼に手を合わせ終わると、カッカ（母）は――親方のところに帰れ。――と急ぎ立てた。

オラは会津にいる、親方の元に往くしかなかった。

親の死の悲しみ、そして母のことばに泣きながら、石峠（守門岳）に野宿した。目が覚めた。

眼前にふるさと吉田の村々が朝日に輝き開けた。弥彦の山、間瀬の海も輝いていた。吉田の狭川（西川）も見えた。

親の顔が浮かんだ。急ぎ立てる親の気持ちも伝わってきた。

オラは懐に残る、にぎり飯を口に入れながら、朱に染まる山を駆け下りるようにして、会津に向かった。

篠原嘉左衛門（重房）が吉田神社の造作中に弟子入りした、込山米蔵が六十里越えをする、十六歳の晩秋の「忘備録」です。

「わたしたちは、この峠に立ってみました。確かに米蔵のふるさと吉田町、そして岩室村役場も確認できました。」

間瀬大工の主な出稼地は、越後～江戸に通じる横断街道、北国、三国、会津街道沿いに展開しているようです。

会津と越後の山々が連なる山あいを縫って流れる阿賀野川、会津街道はその川筋道です。

この街道を越後から、会津に往く人々を新発田藩は、番所を設け監視していました。（山内口留番所）番所の控帳から、間瀬の大工集団を、表―1から浮かび上がらせてみましょう。

四日、間瀬浜の二十人の男たちがそれぞれ風呂敷包みを一個ずつ抱えて会津に往ったことが分かってきます。

十八日、男十七人、女二人の集団が会津に入っています。

大工集団に、女も加わっていることが浮かび上がってきます。

女は飯炊きなどの必要から、加えられたのでしょう。

病気、怪我で出稼ぐことのできない夫に代わって、稼ぐことになったのでしょうか。

この年、間瀬浜の人々が、この番所を通過した総数は十七集団で三百四十二人です。二月には、四人に一人は間瀬の人になります。

領主は、他国稼ぎは領地が荒れることであり、極端に嫌いました。しかし、間瀬には止めることのできない事情があったのでしょう。五ケ浜、越前浜、赤塚村などの海沿いから、会津への出稼ぐ姿があります。

東蒲原郡三川村岩谷、国天然記念物将軍杉の元に、平等寺薬師堂があります。

かやぶきの小堂ですが、組み物など手法は雄大で、室町時代の建築手法の特色をよく表しており、国の重要文化財に指定されています。道筋にあるこのお堂は、間瀬大工の常宿の旅籠のようなものでした。

旅籠といっても宿賃を払わなくてもよかったのです。

お堂に参籠（こもる）するように一夜を過ごしたのです。

お堂の柱や壁板の至るところに落書きがされています。

それぞれの住まいや名前とともに、旅への思い、願い、そして愛しい人の名などを書き残していったものです。

大工が墨付けに使う筆は、竹を削った平たい筆であり、独特な筆体になります。この落書きの中に間瀬大工の戯れ書きもあるのでないでしょうか。

これらの落書きは、当時の庶民の姿や心情を知る貴重な手がかりです。

――棟梁、兄弟子の技は見て盗め――親方は決して手をとって教えてはくれませんでした。

怒鳴られることは、仕様が悪いことであり、技は手先よりも、怒鳴られながら、体で覚えました。

このお堂に世話になるとき親方は、堂の組み物について、講釈をたれました。この講釈に他郷の大工は聞き耳を立てていたそうです。

間瀬大工の技のすばらしさは、このお堂が基本である。――と現代の建築家の多くは語っています。

筆の小まめな大工によって、出稼ぐ往来の様子は少しは知れます。

間瀬と会津は、約五日間位は、要したようです。雪があると二日位は多くかかったようです。

道沿いの神社、野宿することも案外に多かったようです。

それぞれの集団は、街道筋に懇意にする民家があり、それらを宿ともしていました。

先述したお堂の下を通る、国道四九号線に面して、大きな供養塔が立っています。

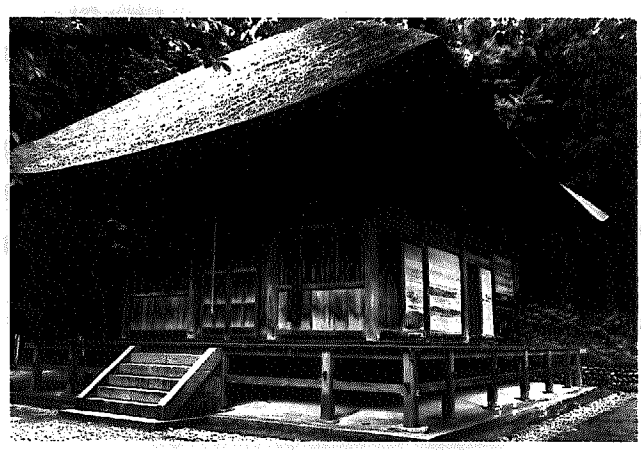
碑文を読むとわたしたちは、涙で判読できませんでした。

帰郷する出稼集団の船が転覆し、四十四人が溺死したのです。

間瀬の人は幸い乗船していなかったようです。隣村の五ケ浜村の二十一人が遭難しました。

それは明治時代の始まる約二十年も前の悲しいできごとでした。

（岩室村生涯学習推進本部）



間瀬大工の技の基本であり、常宿でもあった薬師堂（会津街道、三川村）

表―1
天保2年2月会津街道を往った間瀬の人々

日	住った人	人数	往先	持った荷物
4	間瀬浜桑名領	20	会津	風呂敷包み20
6	間瀬浜	41		
6	間瀬浜	10		
7	間瀬村	12	会津	
8	間瀬浜	61		
9	間瀬浜	20		
11	間瀬浜	61		
13	間瀬浜	17		
14	間瀬浜	11	会津	
15	間瀬浜	24	会津	
18	間瀬浜	19		男17　女2
19	間瀬村	11	会津	男10　女1
22	間瀬村	12		
計		319人		

■広報いわむろ　第四三九号　平成十年十一月一日発行（毎月一回一日発行）■発行　岩室村役場■編集　総務課■新潟県西蒲原郡岩室村大字西中八六〇（〒九五三―〇一九二）■☎〇二五六―八二―四一一一(代)■印刷　北洋印刷㈱